

令和2年度

東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査

報告書

令和2年6月

東京都教育委員会

はじめに

東京都教育委員会は、東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査を毎年実施し、中学校、義務教育学校及び高等学校の教科指導に活用できるよう、その結果を公表しています。

東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題は、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして、一部の領域に偏ることのない基本的な事項から出題されています。言い換えれば、入学者選抜のための問題であるとともに、中学校又は義務教育学校の教育課程を修了する東京都の中学生一人一人の学習成果を測るものといえます。

令和2年2月21日に実施した学力検査に基づく入学者選抜には、約41,000人もの生徒等が受検しました。本調査報告書では、学力検査結果を分析し、各教科の平均点、得点分布及び各問の正答率や、正答率の低い問題を中心に主な誤答や誤答に至った原因分析等を掲載しています。

中学校及び義務教育学校においては、国語・数学・英語・社会・理科の各教科のどのような分野や領域の力が身に付いているのか、また、苦手としているのかなど、東京都の中学生の学習状況の実態を表した調査結果と自校の生徒の学習状況との比較により、成果と課題の把握や、生徒の習熟の程度を高めるために必要な指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

また、高等学校においては、調査結果と入学した生徒の学力検査結果との比較による学力の分析や、生徒の学習状況の実態に基づいた指導計画の立案、学力向上に向けた指導方法の工夫・改善等、「都立高校学カスタンダード」の策定に活用することができます。

区市町村教育委員会、中学校及び義務教育学校並びに高等学校におかれましては、本調査報告書に掲載した内容等を、生徒の学習状況の実態把握や授業のねらいの設定など、生徒の様々な力を伸ばす学習指導に活用していただければ幸いです。

令和2年6月

東京都教育委員会

目 次

I	令和2年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針	1
II	調査目的	1
III	調査内容	1
IV	調査結果	
1	概要	1
(1)	教科別受検者数	
(2)	教科別実施校数	
(3)	教科別平均点	
2	各教科	2
(1)	国語	2
(2)	数学	4
(3)	英語	6
(4)	社会	8
(5)	理科	10

参考資料

1	令和2年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題 (第一次募集・分割前期募集)	12
2	令和2年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題 (第一次募集・分割前期募集) 正答表	26

I 令和2年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

- 1 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。
- 2 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。
- 3 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようにする。
- 4 平成30年度から実施の、教育課程の移行措置に配慮する。

II 調査目的

- 1 上記Iの基本方針に基づき東京都教育委員会が作成した学力検査問題（以下「共通問題」という。）を受検した者について、その学力の実態を把握する。
- 2 各教科・各問の正答及び誤答を分析し、その結果を中学校、義務教育学校及び高等学校に提供することで、各学校における教科指導の改善に資する。

III 調査内容

令和2年度入学者選抜の第一次募集・分割前期募集（令和2年2月21日実施）において、全日制高等学校を志願し、共通問題により学力検査を受検した者について、次の調査を実施した。

- 1 教科別の平均点及び得点分布
全数調査により、教科別得点状況等を調査した。
- 2 各教科の小問・大問正答率
抽出調査により正答率を求めた。調査に当たっては、信頼度95%を担保するに十分な人数の受検者を抽出した。

小問正答率は、小問において、抽出した受検者数に対する正答（部分正答を含む。）者数が占める割合である。大問正答率は、大問において、各小問で抽出した受検者の総数に対する、各小問での正答（部分正答を含む。）者の総数が占める割合である。

IV 調査結果

1 概要

(1) 教科別受検者数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
34,776人	34,777人	34,547人	38,946人	38,945人

(2) 教科別実施校数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
150校	150校	149校	164校	164校

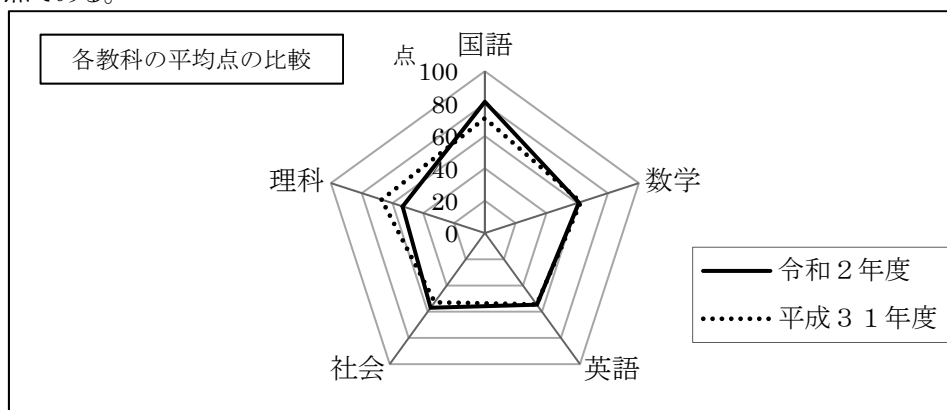
(3) 教科別平均点

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
81.1点 (71.0点)	61.1点 (62.3点)	54.7点 (54.4点)	57.0点 (52.7点)	53.4点 (67.1点)

(注1) 各教科の満点は100点である。

(注2) 記述式の問題や作図の問題では、各学校で部分点を与えるなど採点上の配慮を行っている。

(注3) 教科別平均点欄の（ ）内の数字は、平成31年度入学者選抜学力検査における各教科の平均点である。



2 各教科

(1) 国語

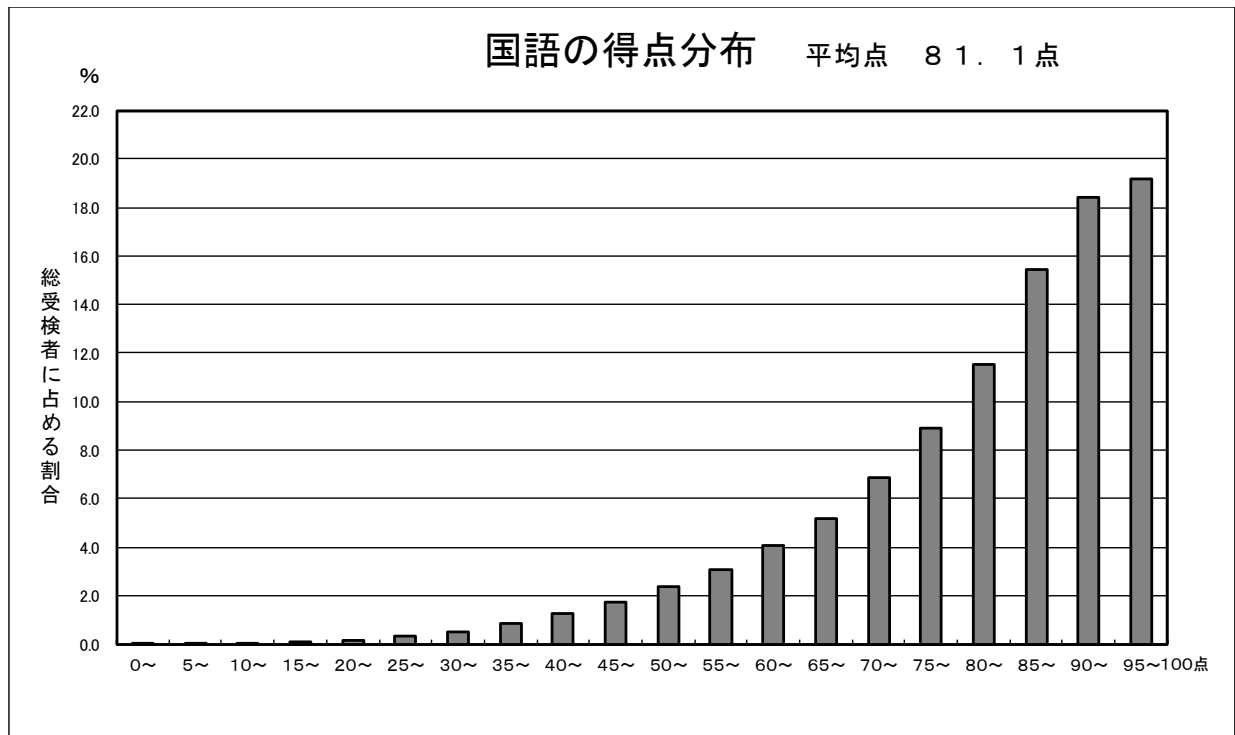
ア 出題の方針

国語を適切に表現し正確に理解する能力をみるとともに、伝え合う力や思考力及び想像力を総合的にみる。

イ 各問のねらい

- 1 漢字を正しく読む能力をみる。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる。
- 3 文学的な文章を読み、叙述や描写などに即して、語句や文の意味、登場人物の様子、心情などを正しく理解する能力をみる。
- 4 説明的な文章を読み、叙述や文脈などに即して、語句や文の意味、文章の構成及び要旨などを正しく読み取る能力をみるとともに、考えが正確に伝わるように構成を工夫しながら、相手や目的に応じて自分の意見を論理的に表現する能力をみる。
- 5 対談を含め、古典を引用した複数の資料を読み、古典並びに現代の語句及び資料の内容について理解する能力をみるとともに、発言の役割を理解することを通して伝え合う力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は81.1点となり、昨年度より10.1点上昇した。

今年度は、分布のピークが昨年度の80点～84点から95点～100点に移り、85点以上の受検者の割合が23.8%から53.0%に増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 漢字を正しく読む能力をみる問題とした。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる問題とした。
- 3 高校の映画部を舞台として、主人公と仲間のやり取りが描かれた小説を読み、表現の特徴や登場人物の様子、心情などを読み取る問題とした。
- 4 生命体が、環境に適応し進化するために行う営みについて論じた文章を読み、文脈に即して内容を正確に読み取る問題、文脈から段落の役割を捉える問題、筆者の主張を正確に読み取る問題、本文の主題を踏まえて自分の意見を聞き手に分かりやすく伝える力をみる問題とした。
- 5 松尾芭蕉に関する対談及び古典の一部を読み、要旨を捉える問題、話の進め方の特徴を読み取る問題、語句の働きや意味を答える問題、歴史的仮名遣いを含む語句を答える問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 (3)「きんれん」と表記する誤答が多かった。
- 2 (4)「輸送」と書く誤答が多かった。
- 3 〔問1〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、「チクチクと一定リズムで回るファンの音に苛立ちながら」勉強する様子について、「擬音語を用いて心情と重ねる」表現であることを理解する力が十分ではなかったためと考えられる。
- 4 〔問4〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、細胞やタンパク質等の生命の構成要素の関係性や周囲との調整の仕方に関する叙述を的確に捉えることができなかつたためと考えられる。また、〔問5〕では、自分の体験や見聞を挙げ、テーマに対する自分の意見を表しているが、本文の内容を踏まえていないものや、意見と体験等のつながりが不明確なものが多かった。これは、筆者の主張に対する理解が十分ではなかつたり、自分の意見と取り上げた体験等の関連についての吟味が十分ではなかつたりしたためと考えられる。
- 5 〔問1〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、「芭蕉」の「心の傾向」について、対談全体の内容を踏まえて的確に捉えることができなかつたり、山本さんの発言を、前後の内容と関連付けて読み取ることができなかつたりしたためと考えられる。また、〔問2〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、井上さんの「ちゃんとした観賞」という発言について、前後に述べられている発言と関連付けて理解することができなかつたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1, 2の正答率から、漢字についての知識はおおむね身に付いていると考えるが、誤答の内容から漢字一字一字の音訓や意味の理解が十分ではない生徒がいると考えられる。日頃の授業において、漢字の構成要素である「へん」や「つくり」などに注目して、音符と意符を考えることで読みを類推するような活動を取り入れることが必要である。また、「話すこと・聞くこと」の指導において、同音異義語と誤りそうなときに、漢字を例示するような活動を取り入れるなど、機会があるごとに漢字を意識するようにすることが重要である。
- (イ) 3の〔問1〕の正答率から、文章中で使用されている表現の効果について理解する力が十分ではないと考えられる。文学的な文章の学習において、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、表現がどのように働いているか考えさせることが必要である。
- (ウ) 4の〔問4〕の正答率から、叙述や文脈などに即して、筆者の主張、比喩のねらいなどを捉えることが十分ではないと考えられる。説明的な文章の学習において、筆者の主張部分や文章中のキーワード、キーセンテンスなどを捉えて情報を整理する指導や、文章を読んで理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動が必要である。
- (エ) 5の〔問1〕の正答率から、文章全体の大意を捉える力が十分ではないと考えられる。日頃の授業において、キーワードとなる語句を判断させたり、キーワードと主張との関連を捉えさせたりするために、対話や文章の概要をまとめ、語句の用いられ方を考えさせる活動が必要である。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	(1)	2	98.4%	93.0%
	(2)	2	98.3%	
	(3)	2	82.2%	
	(4)	2	97.7%	
	(5)	2	88.4%	
2	(1)	2	81.3%	83.9%
	(2)	2	88.3%	
	(3)	2	86.3%	
	(4)	2	77.7%	
	(5)	2	85.9%	
3	※〔問1〕	5	54.0%	82.2%
	※〔問2〕	5	94.9%	
	※〔問3〕	5	93.3%	
	※〔問4〕	5	82.6%	
	※〔問5〕	5	86.3%	
4	※〔問1〕	5	80.3%	☆74.6%
	※〔問2〕	5	72.3%	
	※〔問3〕	5	75.9%	
	※〔問4〕	5	69.0%	
	〔問5〕	10	☆75.6%	
5	※〔問1〕	5	63.4%	73.6%
	※〔問2〕	5	72.6%	
	※〔問3〕	5	74.9%	
	※〔問4〕	5	74.4%	
	※〔問5〕	5	82.7%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合
(注2) ※は記号選択式の問題

(2) 数学

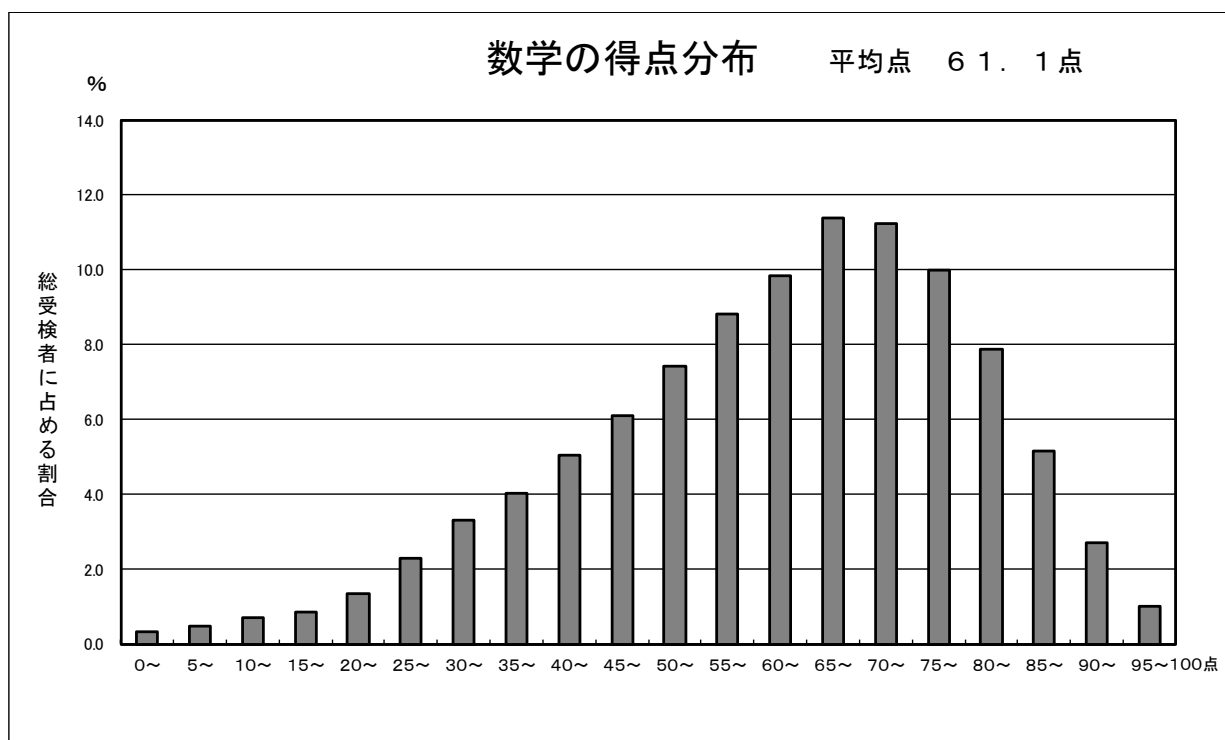
ア 出題の方針

数量や図形などに関する基礎的・基本的な事項についての知識・理解をみるとともに、数学的な見方や考え方、数学的な技能に関する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 数と式，図形，資料の活用の各領域に関する基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能に関する能力をみる。
- 2 数学的活動の場面をもとに，数学的な見方や考え方に基づいて事象を数理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 3 関数についての知識・理解をみるとともに，関数関係を表現し，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。
- 4 平面図形についての知識・理解をみるとともに，見通しをもって論理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 5 空間図形についての知識・理解をみるとともに，図形に対する直観的な見方や考え方を基に，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は61.1点となり，昨年度より1.2点下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度と同様に65点～69点となり，80点以上の受検者の割合が7.8%から16.8%に増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 計算問題や作図など基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能に関する能力をみる問題とした。
- 2 半径が異なるが同じ高さの2つの円柱の展開図を基にして、2つの円柱の体積や2つの円柱の側面との関係について、数理的に考察し文字を用いて処理する能力や推論の過程を的確に表現する能力をみる問題とした。
- 3 関数 $y=ax^2$ を題材として、変域を求める問題、2点を通る直線の式を求める問題、座標平面上にできる四角形と三角形の面積について考察し処理する能力をみる問題とした。
- 4 正方形を題材として、文字を用いた式で角の大きさを表す問題、三角形の合同を証明する問題、相似な三角形を見だし線分の比を求める問題とした。
- 5 直方体を題材として、空間図形における線分と面の位置関係に着目し、空間の中にできる三角形の面積を求める問題、直方体の中にできる立体の体積を求める問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
1	[問 1]	5	78.0%	☆74.7%	
	[問 2]	5	93.8%		
	[問 3]	5	76.2%		
	[問 4]	5	93.2%		
	[問 5]	5	93.1%		
	[問 6]	5	57.3%		
	[問 7]	5	77.2%		
	[問 8]	5	37.3%		
	[問 9]	6	☆66.0%		
2	※ [問 1]	5	62.7%	☆44.5%	
	[問 2]	7	☆26.3%		
3	※ [問 1]	5	74.2%	53.6%	
	※ [問 2]	5	69.0%		
	[問 3]	5	17.4%		
4	※ [問 1]	5	64.6%	☆45.6%	
	[問 2]	①	7		☆65.7%
		②	5		6.6%
5	[問 1]	5	38.3%	20.4%	
	[問 2]	5	2.4%		

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

(イ) 主な誤答例等

- 1 [問 6] では、「 $\frac{-3 \pm \sqrt{21}}{2}$ 」という誤答が多かった。これは、解の公式を用いて表した分数について、根号を含む式の意味を十分に理解しておらず、分母と分子の一部を誤って約分したためと考えられる。
[問 8] では、「34度」という誤答が多かった。これは、求める角度が弧ADに対する円周角の $\angle ABD$ と等しいと誤って考えたためと考えられる。
- 2 [問 2] では、部分正答を含めて正答率が26.3%、無答率は57.6%であった。これは四角形ABGHを側面とする円柱の底面の半径が $(a+b)$ cmであることを、根拠に基づいて示すことができなかつたり、説明の見通しを立てられなかつたりしたためと考えられる。
- 3 [問 3] では、誤答率が39.3%、無答率が43.2%であった。これは、条件を満たす点の座標を、文字を用いた式で表し、その文字を用いて四角形OAPBの面積と $\triangle AOQ$ の面積の関係を表し、処理することができなかつたためと考えられる。
- 4 [問 2] ②では、誤答率が69.4%、無答率が24.0%であった。これは、与えられた図から解答を導くために必要となる相似な図形を見いだすなどして、線分EQの長さや線分QRの長さの比を、考察する見通しを立てることや、処理することができなかつたことが原因と考えられる。
- 5 [問 1] の誤答率が45.6%、無答率が16.1%であった。これは条件に基づき点Pと点Qを動かしてできた三角形が直角三角形であることを見いだせなかつたためと考えられる。
[問 2] では、誤答率が56.9%、無答率が40.7%であった。これは、直方体の中にできる立体の高さを正しく捉えることや、三平方の定理などを用いて高さを求めることができなかつたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1の正答率から、基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能についてはおおむね定着している。1 [問 8] や 4 [問 2] ②の正答率の低さから、図形に関する基礎的・基本的な事項を活用したり、それらを組み合わせて考察したりする力が十分ではないと考えられる。条件を適切に読み取り、図形の位置関係を把握した上で考察させる指導が必要である。
- (イ) 4 [問 2] ①の正答率の高さから、図形の基本的な証明についてはおおむね定着しているが、2 [問 2] の正答率の低さから、推論の過程を的確に表現することについては十分ではないと考えられる。問題文から条件を読み取り立式する指導、推論の過程を根拠に基づき相手に分かりやすく伝える指導を充実させる必要がある。また、考えたことなどを数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動を通して、正確に、分かりやすく表現する能力を一層高める指導が必要である。
- (ウ) 5の正答率の低さから、立体の中にできる平面等を的確に捉える力が十分ではないと考えられる。実際に立体を作ることや、立体の見取図、展開図、投影図を用いてその図形のもつ性質を読み取るなどを通して、空間における図形の位置関係を捉えたり、空間図形を平面図形に帰着させて考えたりする指導を充実させる必要がある。

(3) 英語

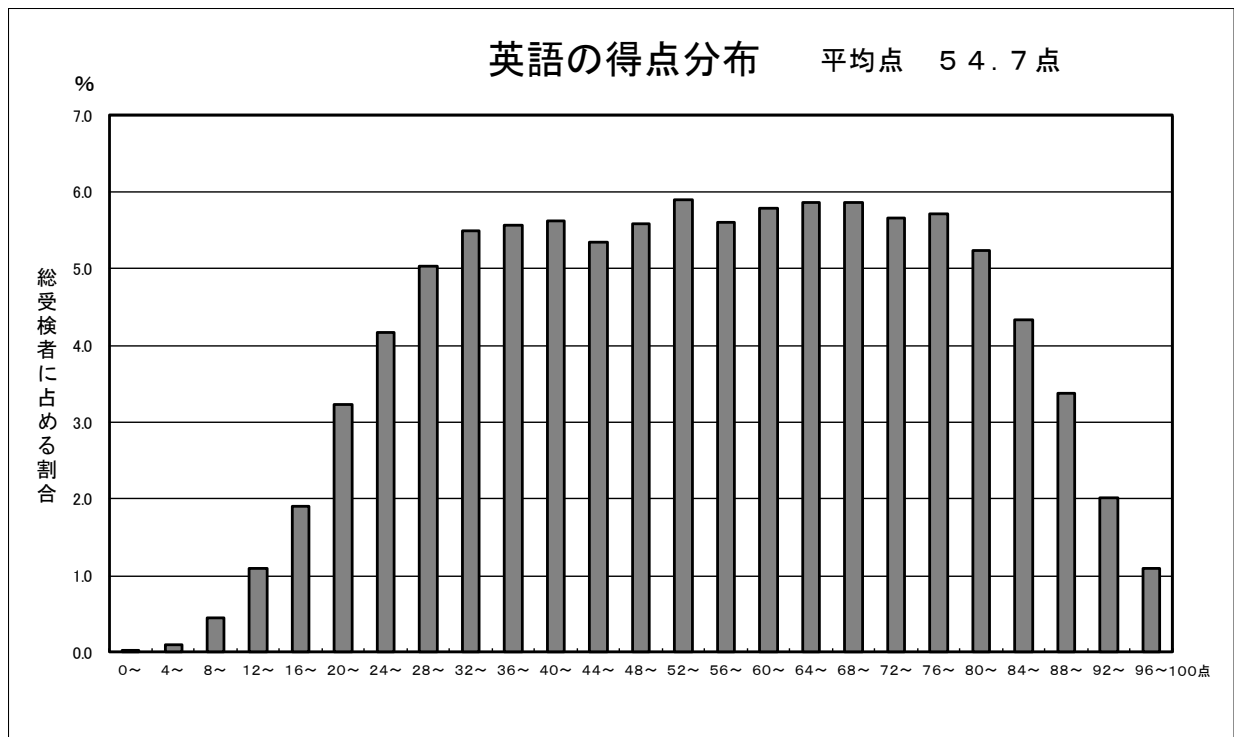
ア 出題の方針

初歩的な英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解するとともに、自分の考えなどを表現するコミュニケーション能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 自然な口調で話される英語を聞いて、その具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる。
- 2 英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみるとともに、必要な情報を得たり、自分の考えを英語で表現したりする能力をみる。
- 3 まとまりのある対話文を読み、その流れや大切な部分を把握する能力をみる。
- 4 物語文を読み、そのあらすじや大切な部分を把握する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は54.7点となり、昨年度より0.3点上昇した。

今年度は、分布のピークが昨年度の64点~67点から52点~55点に移り、80点以上の受検者の割合が16.3%から16.0%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

1 待ち合わせをする場面での対話や留学先での一日の予定についての説明などを聞き、具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる問題とした。

2 日本人の高校生と留学生が、夏休みの体験ボランティアの説明会に参加する際に、参加日や会場を確認し、パンフレットを見ながら参加する活動を決める場面などを題材として、英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみる問題とした。

また、帰国した留学生からのEメールに返信する場面を設定し、「環境を守るためのアイデア」について、自分の考えを英語で表現する能力をみる問題とした。

3 日本や外国の成人を祝う方法について紹介し合うことをきっかけに、自分たちの体験や将来やりたいことについて考えを述べ合い、年齢にかかわらず自分の決断に責任をもち、将来のために今やるべきことに取り組むことが大切であると認識するという内容の対話文を読んで、対話の流れや登場人物の考えを把握する能力をみる問題とした。

4 主人公が、ホームステイにきた留学生に対し、英語で学校生活や日常生活の手助けをする。ある日、その留学生や同級生たちと一緒に出掛けた際、言葉やジェスチャーで意思を伝えようとする彼らの姿を見て、外国語を使ってコミュニケーションを図ることの楽しさに気付く。その帰り道に、興味がある内容について日本語で話すことを留学生に提案するという内容の物語文を読み、本文のあらすじや主人公の心情の変化を把握する能力をみる問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
1	※A	〈対話文1〉	4	92.6%	☆63.0%
		〈対話文2〉	4	70.9%	
		〈対話文3〉	4	69.3%	
	B	※〈Question 1〉	4	64.8%	
		〈Question 2〉	4	☆17.5%	
2	※1		4	45.4%	☆46.1%
	※2		4	31.7%	
	3	※(1)	4	60.7%	
		(2)	12	☆46.6%	
3	※〔問1〕		4	62.3%	57.5%
	※〔問2〕		4	67.2%	
	※〔問3〕		4	60.3%	
	※〔問4〕		4	58.8%	
	※〔問5〕		4	66.9%	
	※〔問6〕		4	35.9%	
	※〔問7〕		4	51.2%	
4	※〔問1〕		4	54.5%	41.0%
	〔問2〕		4	19.0%	
	※〔問3〕	(1)	4	29.5%	
		(2)	4	50.6%	
		(3)	4	44.6%	
	※〔問4〕	(1)	4	49.8%	
		(2)	4	39.1%	
(注1) ☆は部分正答も含めた割合					
(注2) ※は記号選択式の問題					

(イ) 主な誤答例等

1 Bの〈Question 2〉では、“You(We) should tell a teacher.” “Take a picture in front of the school.” などとする誤答が多かった。これは、質問の意図についての理解や、“If the Japanese students want a picture, ...?”が示す条件を聞き取ることが十分ではなかったためと考えられる。

2 2では、「ウ」という誤答が多かった。これは、二人の対話と表の内容から条件に合う予定を正しく読み取ることができなかったためと考えられる。また、3(2)では、「環境を守るためのアイデア」という主題に正対して書こうとしているものの、自分の考えを英語で正しく表現することができなかった解答が多く見られた。

3 〔問6〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、あらすじの正確な把握や、本文の内容を別の表現方法で表す場合に求められる文構造や語法についての理解が十分ではなかったためと考えられる。また、〔問7〕では、「ウ」という誤答が多かった。これは、あらすじの正確な把握や、本文の内容を別の表現方法で表す場合に求められる語彙や語法についての理解が十分ではなかったためと考えられる。

4 〔問2〕では、「イ」と「ウ」を取り違える誤答が多かった。また、〔問3〕(1)では、「ウ」という誤答が多かった。これは、本文のあらすじの正確な把握や、本文の内容を別の表現方法で表した選択肢を正しく読み取ることができなかったためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

(ア) 1及び2の結果から、まとまりのある英語を聞いて、聞き取った事柄や自分の考えを英語で正しく表現する力を一層育成するために、基礎的・基本的な内容を活用して意思の伝達を行う言語活動や、聞いたり読んだりしたことを基に話したり書いたりするなど複数の技能を統合した学習活動をより多く取り入れ、表現方法の定着を図る指導の充実が必要である。

(イ) 3及び4の結果から、まとまった量の文章を用いて時系列を整理させ、登場人物の発言や行動などに注意して読ませることで、対話の流れや物語のあらすじ、本文の大切な部分を把握する力を高める指導の充実が必要である。また、元の文章とは別の表現方法を用いて表現するなどの活動を通して、幅広い表現方法の定着を図る指導が一層必要である。

(4) 社会

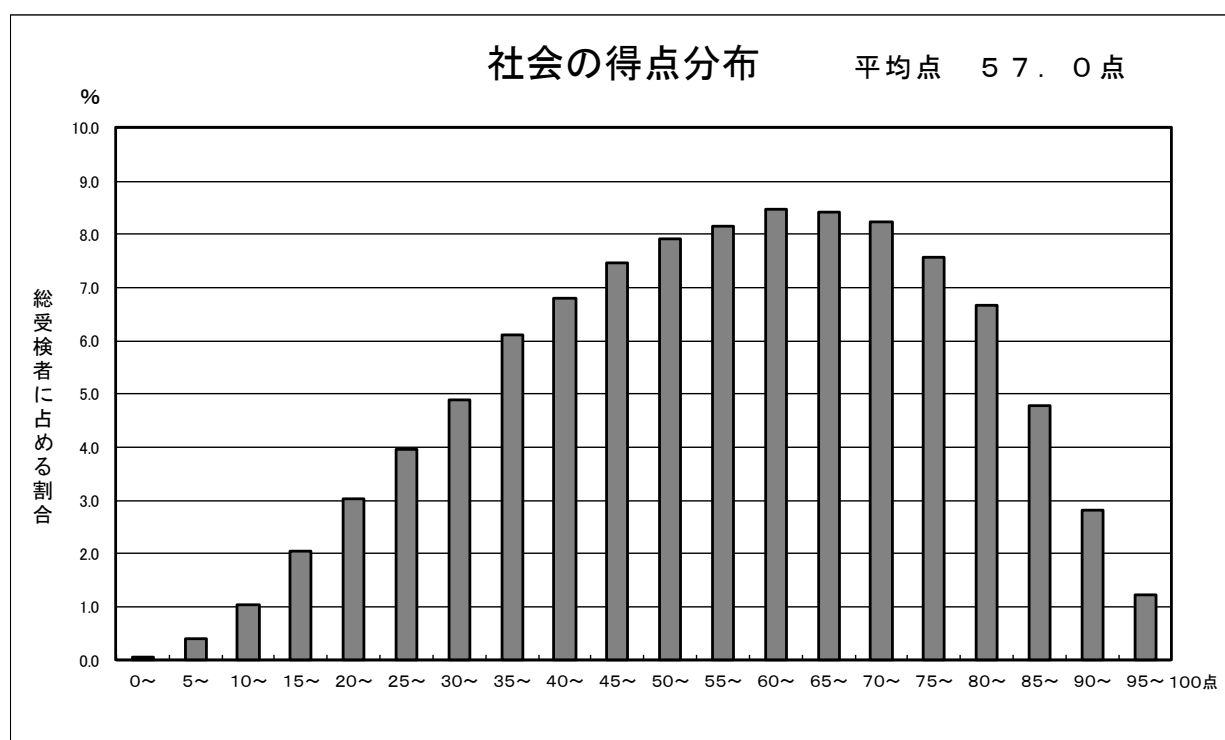
ア 出題の方針

地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみるとともに，地図や統計等の資料を活用して，社会的事象を多面的・多角的に考察し，適切に表現する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみる。
- 2 世界の諸地域の特色や我が国と世界の結び付きについて，地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる。
- 3 我が国の国土や地域的特色について，地図や統計等の資料を活用して，自然環境や産業等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 4 世界の歴史を背景にした我が国の歴史について，年表等の資料を活用して，政治，経済及び文化等の面から考察する能力をみる。
- 5 現代の社会的事象について，統計等の資料を活用して，政治や経済等の面から考察する能力をみる。
- 6 現代社会の諸問題について，地図や統計等の資料を活用して，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野の3分野から総合的に考察し，適切に表現する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は57.0点となり，昨年度より4.3点上昇した。

今年度は，分布のピークが昨年度の65点～69点から60点～64点に移り，70点以上の受検者の割合が22.6%から31.3%に増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 資料から読み取った情報を基にした景観写真の判別、歴史的文化財の所在地、国際連合の機関を問う問題とした。
- 2 ものづくりを題材として、アメリカ合衆国の都市の位置及び気候、交通や自動車工業の様子、我が国との結び付きについて問う問題とした。
- 3 交通を題材として、我が国の鉄道と県庁所在地の交通機関などの様子を基にしたそれぞれの県の特色、庄内空港が建設された地域の様子、新東名高速道路が現在の位置に建設された理由と効果について問う問題とした。
- 4 紙を題材として、飛鳥時代から室町時代にかけての紙が政治に用いられた様子、我が国の屋内の装飾と建築物の様子、書物に書かれた出来事の後に行われた政策、明治時代から昭和時代にかけての我が国の紙の製造や印刷に関する主な出来事について問う問題とした。
- 5 行政を題材として、内閣の仕事の規定する日本国憲法の条文、我が国の内閣とアメリカ合衆国の大統領の権限、行政が担う役割、我が国の歳入と歳出の決算総額の変化と経済活動の様子について問う問題とした。
- 6 持続可能な社会の実現を題材として、第一次世界大戦前から第二次世界大戦後の国際情勢、科学技術の進歩が人々の生活に与えた影響、我が国における政府開発援助の変化について、資料を基に問う問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問1〕	5	78.7%	70.3%
	※〔問2〕	5	65.8%	
	※〔問3〕	5	66.5%	
2	※〔問1〕	5	29.9%	40.0%
	※〔問2〕	5	46.1%	
	※〔問3〕	5	44.1%	
3	※〔問1〕	5	44.7%	☆59.0%
	※〔問2〕	5	53.9%	
	〔問3〕	5	☆78.5%	
4	※〔問1〕	5	32.4%	45.6%
	※〔問2〕	5	48.9%	
	※〔問3〕	5	46.6%	
	※〔問4〕	5	54.6%	
5	※〔問1〕	5	65.8%	60.4%
	※〔問2〕	5	42.5%	
	※〔問3〕	5	56.3%	
	※〔問4〕	5	77.2%	
6	※〔問1〕	5	38.5%	☆49.8%
	※〔問2〕	5	59.1%	
	〔問3〕	5	☆51.6%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

(イ) 主な誤答例等

- 1 〔問2〕では、「イ」という誤答が多かった。これは、世界遺産に登録されている我が国の主な歴史的文化財の所在地についての理解が十分ではなかったためと考えられる。
- 2 〔問1〕では、雨温図の選択で「ア」という誤答が多かった。これは、都市の位置についてシリコンバレーということは知識として理解できていたが、気候の特色や海流についての理解、雨温図の読図の仕方が十分ではなかったためと考えられる。
- 3 〔問1〕では、「Aーイ」、「Bーウ」というAとBの県を取り違えた誤答が多かった。これは、説明文で示されている山脈の位置や地形の特徴、交通機関の発達に関する理解が十分ではなかったためと考えられる。
- 4 〔問1〕では、「エ→ア→ウ→イ」という誤答が多かった。これは、大宝律令の制定など大陸の進んだ政治制度が取り入れられた時代と、仏教の力で国を守るための政策が始められた時代の特定ができなかったことや、飛鳥時代から室町時代にかけての政治の様子についての理解が十分ではなかったためと考えられる。
- 5 〔問2〕では、「ア」という誤答が多かった。これは、我が国の内閣とアメリカ合衆国の大統領の権限の違いについての理解が十分ではなかったためと考えられる。
- 6 〔問1〕では、「ウ→エ→ア→イ」という誤答が多かった。これは、第一次世界大戦前後の国際情勢の理解が十分ではなかったためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 地理的分野については、地形図や雨温図の読図など基礎的・基本的な地理的技能を身に付けさせる指導を継続することが必要である。また、地図帳を活用し、複数の地理情報を関連付けて考察し、地域的特色を理解させる学習活動の一層の充実が必要である。
- (イ) 歴史的分野では、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解させる指導を継続することが必要である。また、様々な資料を活用し、歴史的事象を多面的・多角的に考察させる学習活動の一層の充実が必要である。
- (ウ) 公民的分野については、日本国憲法の基本的な考えや、政治の諸制度を成り立たせている考え方や仕組みについて、多面的・多角的に考察し、事実を正確に捉える学習活動の一層の充実が求められる。
- (エ) 論述問題については、社会的事象から課題を見だし、多面的・多角的に考察したことについて適切に表現する力を身に付けさせる学習活動の一層の充実が必要である。

(5) 理科

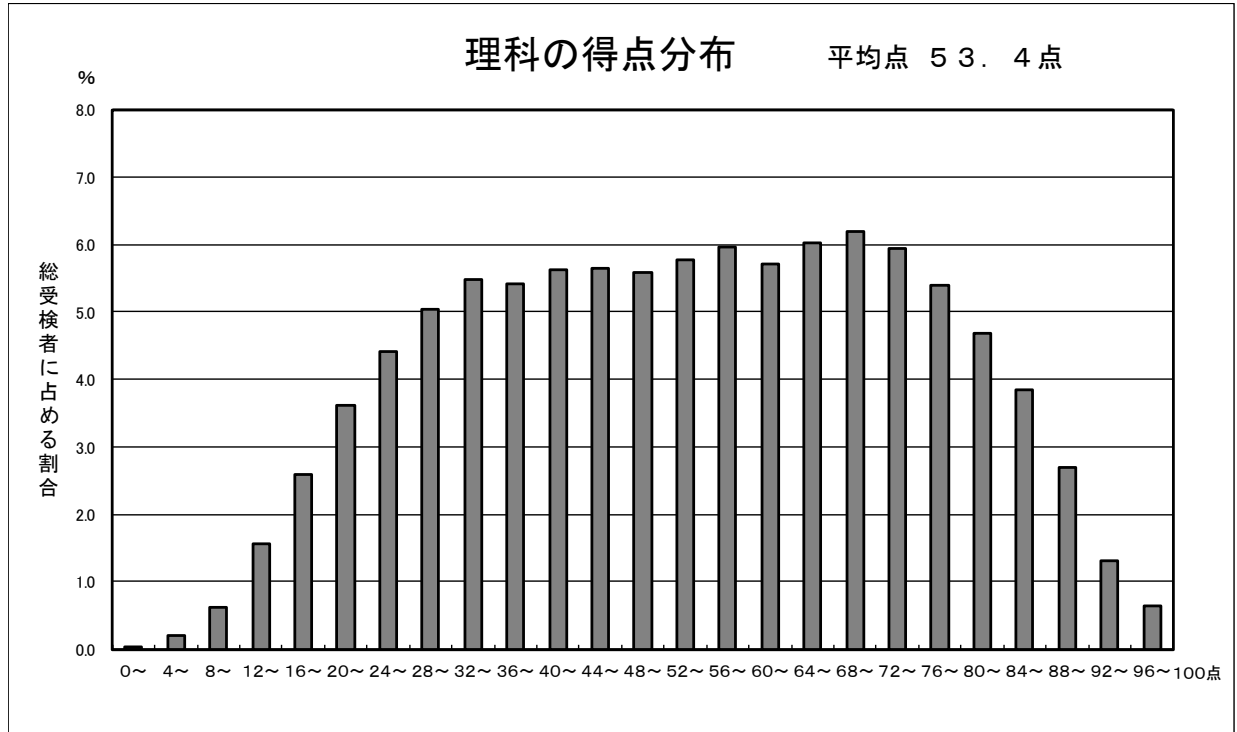
ア 出題の方針

自然の事物・現象について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、観察・実験や探究的な活動を通して科学的な思考力や表現力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 第1分野（物理・化学）と第2分野（生物・地学）の各領域における基礎的・基本的な事項の知識・理解をみる。
- 2 日常生活に関わる探究的な活動を通して、科学的な思考力や複数の領域にわたる事項の知識・理解をみる。
- 3 地学的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、観察を通して科学的な思考力や表現力をみる。
- 4 生物的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力や表現力をみる。
- 5 化学的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力や表現力をみる。
- 6 物理的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力や表現力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は53.4点となり、昨年度より13.7点下降した。

今年度は、分布のピークが昨年度の80点～83点から68点～71点に移り、60点以上の受検者の割合が67.6%から42.4%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 各領域における基礎的・基本的な事項の知識・理解をみる問題とした。
- 2 水に関する事物・現象について探究的な活動を通して、複数の領域にわたる事項の知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 3 太陽の1日の動きを調べる観察を通して、太陽の日周運動や南中高度についての知識・理解及び科学的な思考力や表現力をみる問題とした。
- 4 消化酵素の働きを調べる実験を通して、デンプンやタンパク質の消化と吸収についての知識・理解及び科学的な思考力や表現力をみる問題とした。
- 5 4種類の白色の物質の性質を調べて区別する実験を通して、有機物の性質や電離及び再結晶についての知識・理解及び科学的な思考力や表現力をみる問題とした。
- 6 電熱線に流れる電流とエネルギーの移り変わりを調べる実験を通して、電流と発熱量及び電熱線の性質についての知識・理解及び科学的な思考力や表現力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 [問3]では、「イ」という誤答が多かった。これは、仕事率は単位時間当たりにする仕事であることについての理解が十分ではなかったためと考えられる。
- 2 [問3]では、「イ」という誤答が多かった。これは、光の反射の法則についての理解が十分ではなかったためと考えられる。
- 3 [問4]では、実験に用いた装置の水温が最も高くなる場合における、太陽の光と装置のなす角度を正しく選択できない誤りが多かった。これは、南中高度と地表の温まり方の関係について模式的な図を用いて思考する力が十分ではなかったためと考えられる。
- 4 [問2]では、「ウ」という誤答が多かった。これは、実験結果に基づいて加熱後の消化酵素の働きを考察する力と共に、消化酵素の働きについての知識が定着していないためと考えられる。
- 5 [問4]質量では、「12.4g」という誤答が多かった。これは、溶質の質量ではなく、40℃での溶解度である23.8gから20℃での溶解度である11.4gを引いて求めるなど、溶解度と再結晶により取り出すことができる結晶の質量との関係について思考する力が十分ではなかったためと考えられる。
- 6 [問3]では、「ウ」という誤答が多かった。これは、並列回路における電熱線Aと電熱線Bの発熱量の和を求めなければならないところを、直列回路における発熱量の和を求めるなど、回路における電流と電圧の特徴と発熱量の関係についての理解が十分ではなかったためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※ [問1]	4	68.9%	56.2%
	※ [問2]	4	61.7%	
	※ [問3]	4	45.5%	
	※ [問4]	4	53.8%	
	※ [問5]	4	51.3%	
2	※ [問1]	4	63.7%	67.1%
	※ [問2]	4	68.7%	
	※ [問3]	4	62.6%	
	※ [問4]	4	73.6%	
3	※ [問1]	4	75.6%	☆39.5%
	※ [問2]	4	32.0%	
	[問3]	4	☆41.6%	
	※ [問4]	4	8.9%	
4	※ [問1]	2	59.2%	☆42.3%
	※ [問2]	2	18.5%	
	※ [問3]	4	25.9%	
	[問4]	4	☆65.5%	
5	※ [問1]	4	21.3%	☆30.0%
	※ [問2]	4	30.1%	
	[問3]	4	☆44.9%	
	[問4] 名称	2	36.9%	
	[問4] 質量	2	16.7%	
6	[問1] グラフ	2	☆70.2%	☆55.0%
	[問1] 電流	2	58.3%	
	※ [問2]	4	37.5%	
	※ [問3]	4	36.6%	
	※ [問4]	4	72.3%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 3 [問4]と4 [問2]の正答率が低いことから、観察・実験の結果と模式的な図を関連付けて角度を求めたり、観察・実験の結果と既習事項を関連付けて物質を同定したりするなど、多角的、統合的に思考する力が十分ではないと考えられる。引き続き、基礎的・基本的事項の知識・理解の定着を図るとともに、既習事項や観察・実験の結果、複数の事物・現象等を関連付けて考察する学習活動の一層の充実が必要である。
- (イ) 1と2の正答率の高さから各領域における基礎的・基本的事項の知識・理解についてはおおむね定着しているが、5 [問4]質量の正答率が低いことから、実験結果に基づいて、未知の物質の特徴について習得した知識と関連付けて考察することに課題があると考えられる。観察・実験の結果を分析して解釈することに加え、習得した知識に基づき自ら進んで観察・実験の計画を立てるなどの科学的に探究する学習活動を充実させていくことが必要である。